

2

健康とおいしさを育てる 元気な根、元気な葉



無農薬で、まっすぐなキュウリがなり続ける大内さんのキュウリ

岳温泉旅館に有機野菜を提供している二本松有機農業研究会（3頁）の大内信一会長は、無農薬でおいしく育てる最大のポイントは、「肥料とくに窒素をゆっくりコンスタントに効かせることだ」といいます。窒素が多量に、一気に吸収されると、キュウリの葉が大きく育って、たれ気味になり、灰色かび病などが発生して、農薬なしではつくれません。花の力も弱くなって、曲がり果などがふえ品質・収量が落ちてきます。

消費者にもうれしい生産者のメリット

大内さんは、國分農場の熟成中の堆肥にモミガラなどを混ぜて、自分の栽培に適した堆肥に調整しています。ねらいは、堆肥の含む養分をさらに減らし、その代わりに土の水もち（保水性）と酸素供給（通気性）などの改善効果を高めることです。この堆肥を、畑土全体に混ぜるほか、うねや通路の

表面に施し、肥料はボカシ肥を中心とした有機質肥料を使って野菜を育てています。



小ぶりでピンと張ったキュウリの葉



うねから通路へ、堆肥のあるところに元気に伸びる根